

## 第1回 第2次石垣市観光基本計画素案検討会

### 議事要旨

日 時	令和3年10月25日（月）14時00分～16時30分
場 所	石垣市民会館中ホール
出席者	<p>川満 誠一 石垣市副市長</p> <p>越智 正樹 会長(琉球大学 国際地域創造学部 教授)</p> <p>高橋 秀明 副会長(石垣市観光交流協会 副会長)</p> <p>山田 桂一郎 委員(JTIC.SWISS/観光カリスマ、内閣官房クールジャパン検討委員)</p> <p>大堀 健司 委員(石垣島アウトフィッターユニオン会長)</p> <p>鈴木 達也 委員(八重山ダイビング協会会長)</p> <p>西村 亮一 委員(石垣島クリエイティブフラッグ代表理事)</p> <p>平良 佳子 委員(石垣市織物事業協同組合代表理事)※新城富士子様(代理出席)</p> <p>根原 工 委員(株式会社石垣島物産公社専務取締役)</p> <p>赤池 進 委員(JA ファーマーズマーケットやえやまゆらていく市場店長)</p> <p>新城 和彦 委員(八重山漁業協同組合 参事)</p> <p>伊良皆 誠 委員(音楽創造都市石垣推進協議会代表)</p> <p>岩倉 千花 委員(八重山ヒト大学副学長)</p> <p>西仲野 正巳 委員(石垣市観光交流協会 事務局長)※西玉得りみ様(代理出席)</p> <p>金城 徹 委員(八重山ビジターズビューロー専務理事)</p> <p>通事 太一郎 委員(竹富町世界遺産推進室長)</p> <p>山本 以智人 委員(環境省石垣自然保護官事務所上席自然保護官)</p>
事務局	<p>玻座真、前盛、向井(観光文化課)</p> <p>高牧、井芹、宮城(ランドブレイン株式会社)</p>
欠席者	黒島 剛 委員(映像工場代表取締役社長)

<会次第>

1 開会

2 委嘱状交付

3 副市長あいさつ

4 会長・副会長の選出

5 議事

(1) 関係資料説明

i. 石垣市観光の現状

ii. 現行計画のあらすじと具体的施策の達成状況

iii. 海洋リゾート地比較

iv. 市民アンケート速報値報告

v. 第2次観光基本計画策定の手法・体制・スケジュール

(2) 意見交換

6 その他

(1) 次回開催予定

7 閉会

<配布資料>

・資料1：石垣市観光の現状

・資料2：現行計画のあらすじと具体的施策の達成状況

・資料3：海洋リゾート地比較

・資料4：市民アンケート速報値

・資料5：第2次観光基本計画策定の手法・体制

・資料6：第2次石垣市観光基本計画・石垣市観光危機管理計画 策定スケジュール

○議事内容

・第2次石垣市観光基本計画策定に係り、上記の次第に基づいて第1回 第2次石垣市観光基本計画素案検討会を行った。

【以下、発言要旨】

事務局 (前盛)	・開会を含め、会長選出、委嘱状交付までは事務局にて実施
副市長	みなさまこんにちは。本日はお忙しい中、第2次石垣市観光基本計画素案検討会にご出席いただき誠にありがとうございます。石垣市の入域観光客数は平成25年の新石垣空港開港、クルーズ船利用者数の増加等により、令和元年には過去最高の147万人と、国内有数の観光地に成長したが、観光負荷に対応する量から質への転換が求められている。新型コロナウイルス感染症の影響で経済全体に甚大な悪影響を及ぼしており、新たな生活様式が求められている。本計画は令和4年度から13年度までの10年計画になる。委員の皆様には自由活発なご意見をいただきたい。市は、当面のプロジェクトであるゴルフリゾート計画では環境負荷を最小限に進める予定である。新八重山博物館構想では優良の観光資源として整備し、持続可能な観光地として進めていきたい。
事務局 (前盛)	事務局紹介、会長副会長は互選とする。 会長は越智正樹委員、副会長は高橋秀明委員に決定。
越智会長	ご存じの通り日本全国において量から質への転換が叫ばれている。内容への理解は立場ごとにずれがあり、同じものではない。石垣市での具体的な量から質への転換を共有する必要がある。量から質への機運が高まっていることは非常に重要で、社会のあり方を変える大きなチャンスである。また、描かれるビジョンが現実離れしすぎると現状の石垣島の現実性をつなぐ提案が必要になると考えている。計画の意味についてみなさまのご意見を頂戴したい。
高橋副会長	10月1日に緊急事態宣言が解除されたことにより、少しずつ観光客が戻ってきたが、これからは重要であると考えている。今後ウィズコロナ・アフターコロナについてどのように取り組んでいくかが大切なことである。観光地は石垣市だけではなく、全国各地の観光地がリカバリーを目指す。石垣市では、どのように観光施策をするのが重要である。一緒に力を合わせて基本計画案を作成したい。
越智会長	議事録や資料に関しては、その都度公表し、傍聴者やマスコミの傍聴を許可することに決定。 議事を進める前に、スケジュールをお伝えする。本素案検討会は全4回を予定している。 第2回素案検討会では骨格となる素案についてご意見をいただきたい。
事務局 (前盛)	・配布資料の確認を行った。
事務局 (玻座真)	・会次第に沿って、資料5資料6の順番で説明をした。
～以下、資料説明に対する質疑応答～	
委員	自然体験ツアーの団体の会長をしている。これまで20年間、夫婦でツアー事業をしているが、去年は仕事が激減した。質の高い観光や自然ネイチャーツアーの質とは、どのようなことなのかを考えており、それにつながるような補助事業を獲得できた。3日間かけて、カヌー、シュノーケル、サバニ、乗馬をして石垣島北部で化石燃料を使用せずに移動するアクティビティを行った。現実的にこのようなスタイルの観光ができるこ

---

とを示していこうとしている。受け入れ人数は極端に少なくして意識の高い方が参加。観光に携わる方々はエコツーリズムを意識して、来訪者は石垣島に来島ただけで環境に対する意識が少しでも高まればいいと思う。私は島まるごとツーリズムを提唱する。量と質はシーソーの両端にあるわけではなく別軸であるものだと考える。

---

越智会長 県の観光計画策定に関する議論でも、量も質も重要になるとなっており、先祖返りしている。質も量もではなく、質を高めるのが大事である。

ごく一部の意識の高い方だけが質の高いものに参加しても石垣全体へのいい影響になるのか。ビジョンを共有していきたい。意識の高いツアーで時間のかかるものだけをターゲットマーケティングして、入域観光客数が減っても構わないのか。目標の入域観光客数の数値は本当に必要なのか考える必要がある。

---

委員 普段は特産品を生産している。観光従事者に対しての経済効果を考えてこれからの観光の方向を考えて行くのか。自然環境を守っていくのか。ギャップを考える必要があるため、価値観の定義の共有が必要である。理念をどうするのか、何をやってきて何を達成できたのかを見なければならないのかなと思う。観光従事者である12.8パーセント以外の住民がどうすれば納得して満足してもらえるのか。石垣市にきた観光客も大切だが、市民も満足する必要がある。方向性を決めることは難しいが、整合性を取ることはできると思う。質とはなんなのか。時代が変わりコロナ禍になり、人は何を求めるのか理解しなければならず、的外れなサービスでは意味がない。音楽は形を変えてきたが、ずっと残っている。

---

越智会長 市民が満足することやどの立場に立つのが重要である。観光計画は観光事業者に向けた計画になりがちだが、バランスを取る必要がある。市民が観光の力を取り込めれば市民のための観光計画になる。今すぐではなくとも、音楽創造都市の立場からでも広めていただきたい。

---

委員 八重山には大学がないので若者の挑戦の場、学びの場、語りの場を作っていこうとして立ち上げた。目的は島出身の若者や移住者に八重山のコミュニティ形成や情報発信をしていこうとしている。

観光業ではないが、観光は個人的に関心のあるキーワードである。数年前に観光の在り方について考えた際に観光の語源が中国にあると知った。意味としては「その国の光を観る」ことである。一産業としてのサービスとなり、ソフト化しているが、観光というのは本来住民含めて全員に関係があり、島全体の問題だと思う。住民の暮らし、文化、自然環境など含め胸を張ったものがないので、実現できれば魅力的な島になる。

観光基本計画だけに限らず、暮らしている方はルールなどを知らない。目標などは島民や子どもに知ってほしいものである。目標数値は個人的に興味があるから知っているが、他の友人は知らない。周知されていないので新しい計画は情報発信に力を入れてほしい。基本計画の存在自体を知ることができれば、若い世代や関係人口が同じ方向を向けると思う。

---

越智会長 自分のまちを誇るのがまちづくりである。市の計画なのに市民が知らないのであれば、環境教育・次世代教育など観光事業者のためではなく、若い世代に対して教育が必要である。自分自身のものとなればいいと思う。観光は部分的産業であり、どこまで

---

	<p>が観光業なのか明確ではなく、いろいろな産業にまたがる産業である。自分事にしているためにはどのように市民に理解をしていただくか重要である。</p>
委員	<p>〇〇さんが仰っていた、質の高い観光はどういうものなのか。共通認識があればいいと思う。</p>
越智会長	<p>昨年講演会があり、その中で答えのパターンをお話した。1つ目として、観光客の質の高さは客単価が高いことを指す。2つ目として、ルールを守り、地域の価値観を理解するレスポンシブルツーリストを誘客する。3つ目として、観光事業者の質の向上や社会貢献意識の高い事業者の育成。4つ目として、観光事業者の提供するサービスの高さとなる。</p> <p>全て重要な視点になるが、石垣市がどれに一番注力するのかを決めることが大事である。</p>
委員	<p>どこで注力することを決めるのか。決めなければそれぞれの立場、意見を発言するだけにならないか。</p> <p>私は市民所得を向上させることを基本計画の目標とすることが重要だと考える。観光消費額を上げるために客数を増やすことは、環境面を考えればナンセンスだと分かっていることなので、単価を上げていくしかない。質の高い観光を、薄利多売ではなく厚利少売をめざすことと考えれば、今後の検討がしやすくなると思う。</p>
越智会長	<p>石垣市ではSDGsを意識した石垣市未来都市計画と整合する必要がある。第2回素案検討会では質に関する手掛かりを提示し、焦点を当てていく予定である。</p>
委員	<p>特産品を販売しており、石垣市公設市場の管理もしている。商品の質を上げることは製造業者の質だと思う。今年からHACCPを導入し、衛生管理の質を高めている。</p> <p>アンケート結果から公設市場の注目度が高いと認識した。これから環境を整えていきたい。特産品は商品だけではなく、アーティスト、文化、人、自然などがあり、いろいろな面から島のPRになる。</p>
越智会長	<p>製造業者の底上げはもちろん。どこに対して行うのかも大切である。〇〇さんが仰っていた島全体の魅力向上が目指すべき姿につながると思う。</p>
委員	<p>石垣市織物協同組合は上布とミンサー商品を売り出している。ミンサーは糸を染色してそれを帯にしており、公設市場にも出している。先々月はどこもお店が閉まっていたが、今年2月には石垣市伝統工芸館もリニューアルオープンしたので見てほしい。織物組合にくる方はマナーが良く、喜んで帰ってくれる。これからもお客さんの期待にこたえられるように大切にしていく。</p>
越智会長	<p>マナーに関してアンケートに出ていた。観光客の質を高め、維持することは重要である。石垣にきて織物に興味を持つ方など、コアなファンが来るのもいいが、ここに来たから見てみる観光客もいいかと思う。</p> <p>第一次産業である農業や漁業からみた観光に対して意見をいただきたい。</p>
委員	<p>農産物の直売所で働いている。オープンして11年、年間30万人から40万人程度で推移。3分の1程度が観光客。夏場にはパイン、マンゴーが集中的に売り上げを上げている。</p> <p>石垣島はネームバリューがすごく、知らない人はいない。八重山産パインと石垣島産</p>

---

パインでは売れ方は異なる。

量から質への転換とあるが、難しい。質を高めることは接客のマナー向上、対応、店舗づくりに繋がる。客単価を上げるために品ぞろえを変えるのか、再確認していく。石垣島ブランドの認知度はものすごい。石垣島での取り組みや考え方が観光客にも根付いていければいい。

---

越智会長 私自身、県外出身だが石垣島のことは知っていた。ブランド力はあるが、どのように結びついて島民が実感できる還元効果になっているか、結びつけることを強化し、PRもしていこうと思う。第一次産業と観光業が協力して仕掛けを促進することが大事である。

---

委員 第一次産業が求める「質」とは、地元の食材を欲する観光客をさしています。飲食店が地元の食材を積極的に利用してくれることにより「質の向上」につながると思う。地元の自然、文化を理解していく必要がある。

---

越智会長 域内調達では量が確保できない。域内調達を堅持していく。〇〇さんが仰っていた製造する側も質を上げる必要がある。質の高い事業者さんが残ることができるようにしないと、それを選ぶのは観光客である。そのような流れが必要である。

---

委員 ダイビングの現状について、コロナ禍になるまでは右肩上がりで客数は増加していた。店を開けば客が入る状態で悪質な業者がかなり多く増えた。協会にも客からのクレームが何度もあった。コロナ禍になると、大きく影響を受けた業者もあるが、その一方で影響をあまり受けていない業者もある。

---

越智会長 第1回審議会では悪質な業者に関連して、半グレに関する議論があった。アンケート結果でも悪質な事業者への興味が高いことを読み取ることができる。質の低い業者が選ばれないようにすべきだが、制限を設けることに関して市民アンケートの数値が高いわけではないので、計画に記載すべきか迷うところである。また、制限や規制は石垣島だけではなく、八重山圏域全体への影響がある。

---

委員 制限の話に通じるが量から質への転換には、質の向上がある。お客さんと地元、地元住民同士の関係性の向上もある。経済的、社会的なつながりが相互にあり、リピーターに繋がることもある。相互理解について、石垣市と竹富町の関係性も関係がある。観光は非常にポテンシャルの高い産業なので、観光を軸や切り口として、見直して再構築してはどうだろうか。量から質への転換は、向上につながる。竹富町では客と住民の相互理解として制限をかけているが、来ないでくれではなく、このような人に来てほしいというような手段として行っている。自然環境の保全や、伝統文化の継承などに関して理解をいただけるような人に関わってほしい。現在、コロナや世界遺産登録など転換期になっており、相互理解を進めて、見直しのもと構築を前向きに進めたい。

---

委員 観光について、コロナ前とコロナ後では観光客の認識も変わってきている。観光産業はすそ野が広く、経済効果も大きい。観光協会に所属していない事業者さんも今回のコロナで観光が地域経済に与える効果の大きさを感じたと思う。観光事業者だけではなく、市民もこれまで観光の恩恵を受けていたと思うが、観光が地域経済に与える効果等がまだ市民に認識されていないので浸透していく必要がある。2019年の入域観光客数の平均では毎日、4,100人ほどの観光客が来ていた。平均3泊の滞在日数からする

---

---

と、約12,000人の人口増、消費向上の影響がある。具体的な数字を示せば観光による経済効果の大きさが分かりやすいと思う。宿泊日数が多ければ様々な消費行動につながる。宿泊数を増やすことにより、八重山全体での観光の発展につなげることができればいいと思う。

今年7月には西表島が世界自然遺産に登録されたことはコロナ禍において一番いいニュースである。数の増加だけではなく、自然環境の維持その他の対応が必要である。受け入れる側もそうだが、責任ある観光（レスポンシブル・ツーリズム）を理解していただくことも重要である。西表島だけでなく八重山全体で責任ある観光を考える必要がある。また、来訪者の質の高さも大事である。

---

越智会長 観光によるメリットを市民も受けていることを理解いただきたい。地域と観光客の相互理解が質の高い観光に繋がるため、観光が自分事になるような意識づけにしていきたい。

---

委員 環境の立場からすると、島の魅力を失わないことが質の高い観光と考える。過去の観光アンケートにあるとおり、石垣島の魅力は海、自然、文化、景観と、そこでゆったりできる時間かと思う。一時的に収益を上げることができても、こうした魅力がなくなれば観光産業も成り立たなくなる可能性がある。島の魅力を持続させることが、質の高い観光と言えるのではないか。

資料4の21頁では星空、海中、景観では川平湾の文化的景観などの評価が高いと結果がでている。これらを大事な資源と捉え、守る必要がある。守るためには、大きな目標が必要である。

また、重要な観光資源にもなっているサンゴは、マナーが悪い利用者が増加したり、排水が増加したりすれば失われてしまう。分野横断的な対策が必要である。観光資源である環境を保全するための取組みを観光基本計画にも位置づけることができると良い。

西表島では自然を守るために入域数の制限などを定める「エコツーリズム全体構想」の策定が進んでいる。石垣島でも利用者数の制限や、利用ルールの検討、観光客にも負担をいただく仕組みをつくるなどの責任ある観光が必要である。

---

越智会長 責任ある観光という言葉は10年後には使われていない可能性もある。責任のあるとは、何に対してどう責任を果たすのかを明記することである。計画にルールとして入れていく必要がある。

---

委員 入域観光客数は多いが、儲かっていなかったため、観光消費額を向上させる必要がある。市内の客室数は1万4,000室あり、入域客数が150万になっても宿泊は可能ではあるが宿泊業は棲み分けをしている。ある宿泊施設ではファミリー層、ラグジュアリー層などのターゲティングがしっかりとできると質の高い観光につながる。

また、宿泊業だけではなく、地元の信頼を得ることが一番重要である。市は過年度、高校生を対象とした「Chura★I(ちゅらあい)」を実施した。今後は小中学生に対して観光地教育をしてはどうか。

---

委員 スイスのチェルマットという人口5,775人のまち、マッターホルンの麓に住んでいる。大学校では観光政策を担当している。

資料2について、観光計画は何のために計画をつくるのかを考える必要がある。観光

---

を推進することの一番重要な目的は外貨獲得である。また、島民によるレジャー活用としての役割を果たすのではないかと。

ヨーロッパは移民による人口増が問題である。石垣島の最適人口は自然環境も踏まえてどのくらいなのかを考える必要がある。今後、生産年齢人口は確実に減り、各産業の在り方考える必要がある。石垣市を会社として考えてみて、総売り上げがいくらになるのか、散布図を作ってみたらいいのではないかと。横軸を各市町村の総生産額、縦軸を観光消費額にして、石垣市がどのポジションなのかを確認したほうがいい。広島県の呉市の観光計画を参考にしていきたい。

1,050 億円の観光消費額でいいのか。観光入域客数の目標値も150万じゃなくていいのではないかと。入域客数を減らせれば客単価は高くなり、地域のブランド化とともに信頼関係を築くことを進める必要があり、それが島の豊かさと幸せに繋がらないといけない。住民に理解してもらうためには住民と一緒に働くことが重要である。来月、オンラインで三重県鳥羽市の小学生と共同して行っている「島っこガイド」について話すので是非ご参加いただきたい。

主導権を持っているのはみなさんであるので、意見をいただきたい。数値目標を含めてこれでいいのか、0ベースで考え直したらいいのではないかと。地域の魅力がなくなると意味がない。SDGsは維持することでしかなく、SIDs(Social Improvement Goals)の考え方のもと改善点を考えないといけない。

越智会長 個人個人でそれぞれのビジョンがあると認識した。第2回素案検討会では大まかな骨格作成、第3回では基本計画全体像、第4回で完成させたいと思う。

事務局 (玻座真) 今回の検討委員会で方向が見えた。今後、何のための観光なのかを考える必要がある。石垣市には様々な部署があるが、石垣市の目的はひとつ「石垣市に住んで良かったと市民に思ってもらえるように」である。観光事業者は最前線で観光客と接し、その他の産業にも波及効果を与えている。また、事業者が増えると競争も生まれる。航空業界ではLCCの参入により本土との交流も増え、仕事の幅も広がり、外貨が地域に流通するなどの恩恵があると思う。市民も観光産業の発展による向上した生活レベルを落とすことはしたくないと思うので市民の暮らしのための観光であるべきだと発信する必要がある。第2回素案検討会では素案の骨格を提示したい。

事務局 (前盛) 実施を予定している事業者アンケート、ヒアリングへのご協力お願いいたします。

(閉会)

#### 【実施風景】

